## Ⅱ．富山の経済について

北陸新幹線の金沢開業することによって、予想される富山県への様々な影響を考察する前に、県経済の特徴を今一度確認してみたい。

### １．富山県産業の歴史

元禄期より売薬を富山藩経済の重要な柱としてきたことから、藩の中心産業となり、現在は全国有数の薬産地として、医薬品の地場中堅企業や大手メーカーの工場が立地する。また、薬の製造と共に、紙袋・包装用紙器、容器などの新たな産業も生まれ、昭和 17 年には全国出荷額の 3.7%を占める工業集積が形成されている。

その一方で、急流大河川の氾濫・治水対策として建設されたダムによる水力発電は豊富で低廉な電力と工業用水の供給を可能とし、勤勉性に富む労働力など優れた立地条件を背景に、化学、鉄鋼、紙パイプなどの産業が発達し、これらの工場進出に派生する形でプラント修理等の機械工業が発達し、金属精錬では高岡銅器の伝統による技術的な素地を基にその後のアルミ産業発展の基礎を形成した。

昭和 43 年に富山新港が開港し臨海工業地帯が整備されたことで、アルミ建材産業が発展、日本海側屈指の工業集積地に成長し、昭和 59 年に富山地域がテクノポリス地域の指定を受けて以降はハイテク関連企業の進出が目立っている。

これら工業の製造研究拠点としての発展を裏付けているものは、安価な電力供給と良質で豊富な工業用水を容易に得られる地理的条件、富山大学・富山県を中心とした産学官連携研究施設の充実、そして岩瀬港・伏木港など北前船の日本海航路の拠点として発展したことをはじめとする、国際拠点港湾「伏木富山港」や北陸自動車道・東海北陸自動車道等による太平洋側工業地域と環日本海側諸国への交通の利便性を兼ね備えた地域である事などが挙げられる。

### ２．産業の特徴

富山県の県内総生産は約 4.5 兆円で、産業別構成をみると、第１次産業が 1.2%(全国 1.1%)、第２次産業が 32.9%(全国 24.7%)、第３次産業が 68.8%(全国 77.7%)と第２次産業のウェイトが全国値を大きく上回っている。

□県内総生産の産業別構成（2008 年度〈全国 2009 年〉）　（単位　%）

| | 第１次産業 | 第２次産業 | 第３次産業 |
|---|---|---|---|
| **富　山** | **1.2** | **32.9** | **68.8** |
| 石　川 | 1.1 | 24.6 | 77.2 |
| 福　井 | 1.2 | 26.8 | 75.1 |
| 北　陸 | 1.2 | 28.2 | 73.6 |
| 全　国 | 1.1 | 24.7 | 77.7 |

（注）一部分類不能の為、各産業の合計は 100%を上回る。

（内閣府 2008 年度〈全国 2009 年〉「国内総生産」、「県民経済計算」より）

（１）第１次産業は、豊富な水や肥沃な扇状地を活かした米作主体の農業と好漁場に恵まれた漁業が

盛んである。

農業は農業出荷額が 642 億円でその 71%を米が占める。また、耕作地における水田率は全国 1 位（95.8%）で生産のほとんどが米である。

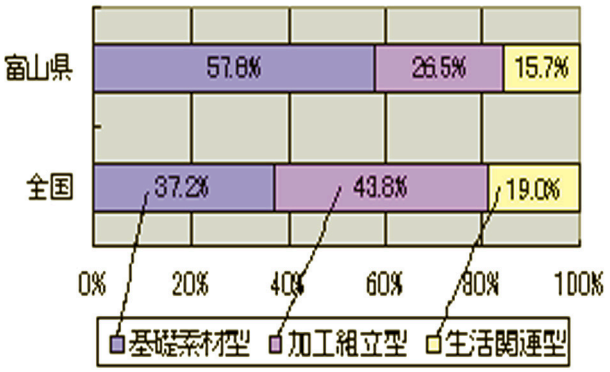
水産業は、2009 年の海面漁業生産額が 146.8 億円で、そのうち養殖業を除く漁業が 99.5%を占め、全国平均の 70.4%を凌駕している。他県にない特色としてはブリの定置網漁、日本唯一の群泳海域を持つホタルイカ漁、近年保存技術の発達で可能になったシロエビ漁などがある。

（2）第 2 次産業では特に製造業が大きくウェイトを占め、主要業種別製造品出荷額等を見てみると、構成比において、化学、金属製品、非鉄金属の 3 業種が大きな割合を占めている。なかでも化学、とりわけ医薬品等のウェイトが高いのが特徴である。

また、製造品出荷額等の性質別構成比をみると、素材・部品を中心とした業種のウェイトが高い基礎素材型（製造品出荷額の割合：富山 57.8%／全国 37.2%）である。

**製造品出荷額等の性質別構成比**　（出典：経済産業省「平成 21 年工業統計」／とやま経済月報平成 23 年 10 月号）

【性質別構成比】




◇基礎素材型

木材・木製品、パルプ・紙、化学、石油・石炭、プラスチック、ゴム製品、窯業・土石、鉄鋼、非鉄金属、金属製品

◇加工組立型

はん用機械、生産用機械、業務用機械、電子部品、電気機械、情報通信、輸送機械

◇生活関連型

食料品、飲料・飼料、繊維、家具・装備品、印刷・同関連品、なめし革、その他

なお、2009 年の全国シェアの高い工業品目（製造品出荷金額の全国シェアが 20%以上の品目）は、富山県では 10 品目あり、銅再生地金・銅合金（56%）、住宅用アルミニウム製サッシ（41%）が高いシェアとなっている。

（3）第 3 次産業は産業別県内総生産構成比で見ると、電気・ガス・水道業を除き、卸・小売業、サービス業共に全国値を下回っている。

富山県は、統計に見られるように、日本海側屈指の工業集積地であり、北陸工業地域の中核である。高い技術力を有するものづくり産業などの地域の特色を活かし、新産業の創出などを通じてより付加価値の高い事業分野の開拓を進めており、特にバイオ、ロボット、深層水、IT 関連分野における最先端事業を推進している。

富山は良質な水資源と安価な電力、勤勉な労働力、それに高速道路（北陸自動車道・東海北陸自動車道）、富山空港、国際拠点港湾伏木富山港などの交通インフラを整備・拡充していることにより、日本海側最大の工業集積地となった。ここに北陸新幹線という「人」を運ぶ交通インフラが整うことによって更にポテンシャルが高まることになり、3 大都市圏をはじめとする他地域との時間距離も短縮され、人的交流・経済交流が一層活発化することが予想される。